



藤が丘病院産婦人科医長に就任して 一診療に関する抱負

藤が丘病院産婦人科医長 小川公一

医学は急速な進歩を遂げており、臨床医は技術ばかりでなくその診療の裏づけとなる科学的な根拠に基づいた診療(EBM)を目指さなければなりません。EBM、チーム医療、安全な医療を最優先課題として診療にあたってまいりました。藤が丘病院は大学の附属病院であり、医学生や臨床研修医、更には看護部、薬剤部門などの学生やスタッフの研修の場でもあります。毎日の実地臨床で、医師は常に自己点検を怠らず、またコメディカルスタッフとの協力の基に、根拠ある診断・治療を行うためのエビデンスを意識し、患者さんに対してもその説明を行うように努める必要があります。これからも今まで以上に、これらの点に配慮して診療にあたります。大学の附属病院は地域医療のリーダーシップをとって診療に当たることが責務ではありますが、それを達成するには、その原動力となる新たな医療スタッフが必要とされ、またその基盤となる確固たる診療・教育体制が必要とされます。今後は医長としてリーダーシップを発揮し、産婦人科研修医・助産師を教育し、チーム医療の実践に努力します。



横浜市北部地区の産婦人科診療については、従前に増して藤が丘・北部両病院が連携し、両病院の特色を生かして地域医療のお手伝いするべく努力します。厚労省の診療に係る将来に向けての基本認識は、医療機関の機能分化・強化と連携に取り組み、医療提供体制の再構築、地域包括ケアシステムの構築を図るとされています。地域の医療機関の先生方には多くの分娩・手術症例をご紹介いただいているわけですが、今後はさらに、セミオープン方式による妊娠管理症例の増加、逆紹介による退院患者の受け入れをお願いしなくてはなりません。地域の医療機関と連携協議し相互協力体制を構築するため、微力ながら一生懸命やるべきことを誠実に実行していく所存ですので、今後とも皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

臨床病理診断科医長を拝命して

藤が丘病院臨床病理診断科医長 大池 信之

この度、光谷俊幸先生の後任として藤が丘病院臨床病理診断科の医長に着任しました。当初はスタッフが揃うのか心配でしたが、学内、院内の関係各位にご配慮頂き、いろいろな背景をもつ混成チームで何とかスタートを切ることができました。紙面をお借りし、感謝申し上げます。



当科の最大の業務は、患者治療の指針や根拠となる病理所

見を正確かつ迅速に報告することにあります。これまでの約2ヶ月間は、私も含め新しいスタッフが藤が丘病院の病理業務のスタイルに慣れるのに時間を要し、また、複数の診断医による相互チェック体制の徹底を計ったこともあり、病理報告の遅延を招いてしまいました。臨床サイドにご迷惑をおかけしたことと思いますが、少しずつ改善させていきたいと思っております。

言うまでもなく、病理診断の精度の向上や誤診の予防のためには、臨床の先生方とのコミュニケーションを密に取り、患者さんの病態について相互共通の理解を持つことが重要であります。そのためには、病理検査室は少し離れた場所にあります。常に開かれた環境作りを意識していきたいと考えております。

6月には新しいスタッフにとって初めてのCPC(臨床病理症例検討会)があります。病理解剖やCPCでは、特に研修医の先生方に有益なものになるよう上級医の先生方と話し合い工夫していきたいと思っております。

臨床病理診断科の業務は、各科の先生方をはじめ、直接的あるいは間接的に病院全体の関係者に支えられながら成り立っています。我々もまた患者さんを中心とする診療チームの一員という自覚を持ち、円滑な業務の遂行のため努力いたします。ご指導・ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い致します。

藤が丘病院薬局長就任のご挨拶

藤が丘病院薬局長・病院薬剤学講座准教授
向後 麻里

平成26年4月1日に昭和大学藤が丘病院薬局長を拝命致しましたので、ご挨拶申し上げます。

私は昭和大学薬学部を卒業後大学院へ進学し、新たな薬剤師としての役割を模索しながら臨床知識の修得と基礎研究に没頭しました。その後昭和大学病院薬剤部に入職し、大学院時代に培った知識を生かし、消化器内科病棟の薬剤師として病棟業務に専念しました。多くの医療スタッフより医療人の本質を教えて頂き、素晴らしい医療スタッフに出会えたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。2001年薬学部病態生理学に異動し、当時お世話になった医師と一緒に消化器疾患を中心に様々な疫学研究に取り組みました。現在は学内外の医療施設と連携し、各種疾患や薬物治療を含めた疫学研究に取り組んでいます。また、2006年薬学教育学に異動し、新規カリキュラムの導入や臨床実習の構築にも携わり、改めて教育の重要性を実感しました。

近年は、医療の進展とともに薬物治療が高度化し、医療の質向上や医療安全の面から薬剤師が主体的に薬物治療に参加することが求められています。患者さんに最善の薬物治療を実施するためには、医療チームのメンバーが連携して患者さんの情報



を共有し、病状を十分に理解し、科学的根拠のある治療法を検討することが重要です。当薬局は古くから薬剤管理指導業務を導入し、全病棟で患者面談や持参薬の確認を通じて医薬品の安全性の確保に努めています。また、周術期や抗がん薬、ハイリスク薬の管理にも積極的にに関わり、薬物治療の提案や医薬品の情報提供なども行っています。

今後はチーム医療の一員として、さらなる薬物治療の質の向上と医薬品の安全性の向上に努めていきたいと思ひます。皆様のご期待に応えられるよう日々邁進していきたいと思ひますので、皆様のご指導・ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

薬局長就任挨拶

リハビリテーション病院薬局長

鈴木 寛子

この度、藤が丘リハビリテーション病院薬局長を拝命いたしましたので、この場をお借りしてご挨拶を申し上げます。

リハビリテーションの主たる目的は、患者さんのADL向上・維持を図ることですが、現在の高齢化社会において患者さんの多くは基礎疾患を有し、複数の薬剤を服用されていることも珍しくありません。また、厚生労働省の医政局長通知(医政発 0430 第 1 号)では『医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進が質の高い医療の実現に必要』とされており、薬剤師は薬剤の専門家として、積極的に薬物療法に参加することが強く求められています。

医薬品の供給や調剤・製剤に関すること以外に、医薬品の適正使用の推進と薬物療法の安全性と有効性を確保するため、当薬局ではすべての薬剤師が病棟業務を兼任し、チーム医療の一員として入院患者さんに最適な薬物治療が実施できるよう努めています。私自身も久しぶりに病棟業務に携わることになりましたが、病棟スタッフの一員として医師・看護師との距離が非常に近いことを実感しております。目の前の患者さんに「何ができるか」を問いかけ、また「患者さんから学び、教わる」姿勢を常にもった、地道な薬剤師業務を展開したいと考えています。

また一方で、薬剤師は「薬のスペシャリスト」であると同時に、薬以外も含めた「医療のジェネラリスト」にもなりうる可能性を感じています。多職種の協業を円滑に行うために、「薬剤師が少しでも関わること」を見出し、積極的に関わっていくことで、さらなる医療の質の向上を目指せると信じています。

私は、35年間という長きにわたり藤が丘病院に勤務し、多くのことを学ばせて頂きました。リハビリテーション病院は、薬局全スタッフ合わせて5名という少数数の構成ではありますが、その分ネットワークの軽さを強みにして、今後より一層チーム医療に貢献できるよう取り組む所存ですので、どうぞよろしくお願ひ致します。

藤が丘病院に入職して

藤が丘病院西4階看護師

加藤 久美子

私は4月から、藤が丘病院4階西病棟に配属となりました。入職前は、新しい環境や人間関係に慣れること、自分自身の専門的な知識や技術の未熟さに対して不安を感じていました。しかし、

配属された部署の方々には、私たち新入職員を温かく迎え、手厚いサポートをしてくださいました。また、同期とはすぐに打ち解け、支えあうことのできる心強い存在となりました。また、新入職員対象の研修が週に1~2回行われ、看護師として、また社会人として必要な基本姿勢を学ぶとともに、看護を提供していく上で必要となる、専門的な知識や技術を深めています。現在では、1人で実施可能なことも増え、自信を持つことができるようになり、入職前に感じていた不安は和らいています。

今は毎日が新鮮で、充実した生活を送ることができています。日々の学びを定着させ、先輩方のように患者さんが安心していただける看護師になれるよう、今後も努力していきたいと思ひます。

新人臨床検査技師として

臨床病理検査部臨床検査技師

手島 慶子

今年の春、臨床検査技師として昭和大学藤が丘病院に入職いたしました。3月から研修が始まり、3ヶ月が経とうとしています。現在は、採血室で研修を行っています。採血の技術が未熟な自分に悔しさを感じていますが、「新人さん、頑張っただね。」と声をかけてくれる患者さんもおり、とても励みになりますし、早く上手になりたい気持ちが一層強くなります。先輩方もひとつひとつ丁寧に指導してくれます。毎日が勉強で、経験につながると実感しており、やりがいを感じています。また、私には一緒に入職した8人の同期がいます。相談でき、励ましあえる仲間がいるのでとても心強いです。まだまだ未熟な私ですが、早く仕事を覚え、多くの業務を任せてもらえるよう、努力していくとともに、日ごろからいろいろな事に積極的に取り組み、技師としての視野を広げていきたいと思ひます。これから、よろしくお願ひします。

新入職員挨拶

臨床工学室臨床工学技士 三橋 理人

この度、4月より昭和大学藤が丘病院臨床工学室に配属になりました、三橋 理人(みつはし りひと)です。配属から2ヶ月が経ち、徐々に業務に慣れてきましたが、まだまだ解らないことが沢山あり、日々勉強の毎日です。私が臨床工学技士になると思ったきっかけは、工業系大学時代に昭和大学病院で見学させて頂いたことで臨床工学技士という職業を知ったことです。その職種内容に興味を持ち調べていくうちにやりがいを感じ、臨床工学技士を目指しました。

今年は1年目ということもあり、呼吸治療、急性血液浄化、心臓カテーテル、機器管理業務など覚えなければならないことが多々ありますが、日々勉強を怠らず、一つ一つの業務にしっかりと丁寧に向き合いたいと思ひます。今後は昭和大学藤が丘病院の一員として、患者様の健康回復に少しでも力になれるような技士を目指して努力して参りますので、宜しくお願ひします。



日々勉強

藤が丘病院管理第一課

岡本 一貴

藤が丘病院に配属され、一か月が経過しました。振り返ってみると本当に緊張の連続でした。また、社会人として働く大変さも強く感じました。私の属する管理第一課は、常に電話が鳴りひびき、多くの方が訪れ、様々な内容のお問い合わせが寄せられます。医師や看護師の方はもちろん、患者さんや業者の方もいらっしゃいます。それらに対し、臨機応変な対応が必要となります。そのためには、相手の方が置かれた立場や状況を考えながら動くことが、業務を進めていくうえで必要だと感じています。分からないことばかりの状態、うまくいかないことがとても多いです。その中で感謝しなければいけないと感じるのは、先輩の存在です。忙しい中で、仕事を丁寧に教えていただけることにありがたい気持ちで、日々勉強しています。今はただ、先輩方の力を借りながら、目の前にある業務を1つ1つ習得し、できることを少しずつ増やせるよう尽力していきたいと考えています。



一による韓国語の勉強会などです。また、メンバー宅にて韓国大衆料理を作り試食会、韓国ドラマの鑑賞も行なっています。ソウルへの旅行では、本場韓国の空気に触れ、朝鮮王朝宮殿の見学や韓服を試着して記念撮影をしました。昨年度は活発な活動が認められ優秀サークル賞をいただきました。今年度も医師・看護師・臨床検査技師・看護助手・院外と多職種から構成されたメンバーが韓国文化を楽しみます。ご興味がある方の参加をお待ちしています。



韓服試着記念撮影(ソウルにて)

(代表 リハビリ病院生理検査室 大野 聖子)

【院内サークル巡り 5】 チームワーク！ Sparkling Bowlers

私たち「Sparkling Bowlers」は構成員約30名のサークルです。年に2〜3回ボーリング大会を行っており、個人戦だけでなく、チーム対抗戦も行いチームワークを築いています。また景品なども用意して大変盛り上がっています。普段、仕事場では見られない医師や看護師、スタッフの姿が見え、StrikeやSpareなどをとると皆でハイタッチして、時にはTurkeyを出す先生もいて大騒ぎです。また、あまり話したことのなかった人と話したりして、お互いをよく知り親睦を深め、その後の職場でのコミュニケーションがより円滑になるのを感じます。主に藤が丘病院5階病棟のスタッフが多いですが、開放的なサークルですので、是非興味のある方はご参加下さい。



(代表 消化器・一般外科 横溝 和晃)

【院内サークル巡り 6】 アンニョンハセヨ 韓流SHOWA

私たちのサークル「韓流SHOWA」は、国内外の様々な韓国文化に触れることを目的としたサークルです。年間の活動内容は、韓流文化の地・新大久保で食事会、K-POPコンサートへの参加、韓国映画の鑑賞、よもぎ蒸しなどの韓国エステ体験、メンバ

祝優勝！ トライアスロンに挑戦して 藤が丘病院こどもセンター看護師 小暮 千春

2014年5月18日、山下公園で行われた世界トライアスロンシリーズ横浜大会エイジグループ・スプリントの部に出場し、優勝しました。もともと身体を動かすことが大好きで、友達に誘われ軽い気持ちでトライアスロンを始め、気が付いたらいつの間にかはまっていました。今回の横浜大会が始めての大会で、完走できるかとても不安でしたが、いざ始めてみると応援の方々の声援に後押しされ、とても楽しく完走することができました。トライアスロンはとても過酷な競技というイメージがありますが、挑戦することでたくさんの仲間と出会え、共に汗を流すことでリフレッシュできる素晴らしい競技です。トライアスロンを始めたことで、身体も心もリフレッシュでき、仕事にも打ち込むことができるようになりました。それだけではなく、元気な自分に自信を持てるようになり、次の目標に向かって挑戦して行こうと思えるようになりました。皆さんも是非トライしてみてください！



「看護の日」イベントを開催して

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで、5月12日を「看護の日」としています。21世紀の超高齢化社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を私たち一人一人が分かち合うことが必要であり、こうした心を老若男女問わず誰もが育むきっかけとなるように、1990年に旧厚生省により「看護の日」が制定されました。

5月12日、看護の日のメインテーマである「看護の心をみんなの心に」をもとに、「看護の日」を知っていただくこと、藤が丘病院と藤が丘リハビリテーション病院合同で来院された患者さんや家族の皆様へ看護の日カードとメッセージ入りのバンドエイドを配布致しました。患者さんやその家族の皆様と触れ合い、楽しい時を過ごすことができました。皆様にとってより一層、病院や看護師が身近な存在になれるよう今後も活動を継続していきたいと思っております。



(看護部 新聞 茂子、辻本 さなえ)

大判プリンターが設置されました

学会発表用ポスターや横断幕・垂れ幕作成などに威力を発揮する大判プリンター(Canon imagePROGRAF iP8300S)が4月より総合医局に設置されました。印刷用紙は、プレミアム普通紙(914 mm幅×50m)、光沢写真紙(914 mm幅×30m)、半光沢写真紙(914 mm幅×30m)、布タイプ(1,067 mm幅×30m)の4種類を用意しています。



最大印刷長は使用するアプリケーションにより異なり、914 mm幅の用紙の場合Microsoft Wordで5.34m、PowerPointで13.69m、Excelで18mとなります。運用はオープンシステムとし、利用に応じて所定の消耗品代を負担していただきます。

(管理第一課 高橋 良治)

「薬味」は元々漢方医学の言葉で、薬の種類や薬の原料を指していたそうです。日本に漢方医学が伝わり、家庭にもある食材で漢方薬の材料になり得るものとして生姜などを薬味と呼ぶようになり、他の香辛料や香味野菜にも意味が広がっていったようです。薬味は食欲増進、体を温める、食あたり防止等の役割が期待されています。もちろんおいしさの面でも、いつもの料理がぐっと引き締まりますね。香り豊かな薬味を使って、暑い季節をさわやかに乗り切ってみませんか？

<薬味でさっぱり 夏野菜の焼き浸し>

《材料》

なす 1本 かぼちゃ 100g ズッキーニ 1本
ミニトマト 8個 サラダ油 大さじ1

《漬け汁》

だし汁 100cc 酢 大さじ2 醤油 小さじ2
砂糖 大さじ1 生姜(すりおろす) 適量
大葉 4枚 みょうが 2個

《作り方》

- ① なす・ズッキーニは1cm、かぼちゃは6～7mmの厚さに切る。
- ② 小鍋でだし汁、砂糖、醤油をひと煮立ちさせ、酢と生姜を入れて火を止める。
- ③ 熱したフライパンに油をひき、野菜を焼く。
- ④ ③を②に漬け込み、冷めるまで置いて味をなじませる。(冷蔵庫で冷やしてもOK)
- ⑤ 大葉は千切り、みょうがは縦半分切ってから斜めに薄く切って軽く水にさらす。
- ⑥ ④を器に盛り付け、水気を切った大葉・みょうがを添える。



(藤が丘病院栄養科 大石 早紀)

7月1日(火)より、病院敷地内(駐車場も含む)は全面禁煙となります。病院周辺の路上での喫煙も控えるようお願い致します。

診療統計

2014年4月・5月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2014年4月	2014年5月	2014年4月	2014年5月
外来患者数	31,047人 (1241.9人)	30,049人 (1252.0人)	5,147人 (205.9人)	5,131人 (213.8人)
入院患者数	15,156人 (505.2人)	14,771人 (476.5人)	5,090人 (169.7人)	5,267人 (169.9人)
紹介率	83.3%	81.8%	51.4%	55.9%
逆紹介率	60.7%	60.7%	37.2%	37.2%

《編集委員》

高橋 寛 佐々木 春明 水間 正澄 小岩 文彦 高橋 良昌 小宅 育代
大塚 幸彦 吉原 利栄 辻本 さなえ 佐藤 優子 豊巻 美里 松尾 悠
飯田 八代枝 出川 美幸 高橋 良治 (順不同)